

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和元年7月号



【東牟婁振興局】6/21 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】
～イチゴ炭そ病対策研修及びイチゴ炭そ病菌の簡易検定を実施～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～農作業省力化&とく農家栽培技術研修会を開催～	
2. 和海地方農村青年交流会を開催	
II 那賀振興局	3 - 4
1. 桃「つきあかり」栽培講習会を開催	
2. 消費税軽減税率制度説明会の開催	
III 伊都振興局	5 - 6
1. 小学校へ「ももの出前授業」を実施	
2. クビアカツヤカミキリの発生調査を実施	
IV 有田振興局	7 - 9
1. 有田川町の小学校でみかんの摘果体験授業を実施！	
2. 不知火（デコポン）の摘果ならびに農業用マスクの研修を実施！	
3. 有田地方農業士協議会研修会が開催されました	
V 日高振興局	10 - 13
1. 印南町農業士会、印南町4Hクラブが先進地研修会を開催	
2. 日高地方農業士会女性部会が先進地研修会を実施	
3. シカレディースが学校給食関係者にシカ肉料理をPR	
4. 御坊市4Hクラブが県外研修、切り枝花木を学ぶ	

Ⅵ 西牟婁振興局

14-16

1. 温州ミカン果実肥大・品質調査を開始
2. 生馬小学校で「ももの出前授業」を実施
3. ツマジロクサヨトウ発生調査を実施
4. スターチスのクーラー育苗を開始

Ⅶ 東牟婁振興局

17-18

1. 重点プロジェクト【新規就農者育成を核としたイチゴの産地育成】
～イチゴ炭そ病対策研修及びイチゴ炭そ病菌の簡易検定を実施～
2. 勝浦の小学生がトウモロコシの収穫と袋詰めを体験
3. アブラナ科野菜根こぶ病菌の簡易生物検定研修を開催

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

19

1. ウイークエンド農業塾 農業入門コース（第1班）閉講
2. ブルーベリーの収穫と挿し木の実習を実施

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～農作業省力化&とく農家栽培技術研修会を開催～

7月18日、重点プロジェクト「次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み」の指導課題である、魅力ある園地へのチャレンジ推進活動として、下津町農業士会（森岡利行会長）主催「農作業省力化&とく農家栽培技術研修会」がJAながみねしもつ営農生活センターで開催された。

研修会には下津町農業士会会員や地域の農業者など当初の予想を超える約100名の出席があった。今回講師に迎えた日高川町新果樹研究会の八田啓氏から「農作業省力化に関するアイデア特集」と題して、“銅板加工によるナメクジ被害の防止方法”や“石垣積みの崩れない方法”など、自身が考案した農作業の省力化に繋がるアイデア紹介が行われた。続いて下津町農業士会の橋詰孝氏から「とく農家のかんきつ栽培 ～連年結果による品質向上を目指して～」と題して、カンキツ栽培における肥培管理の考え方、剪定の重要性やポイント、隔年結果対策等について自身のこれまでの経験を基に説明があった。それぞれの講演終了後には出席者から多数の質問が出され、参加者の関心の高さがうかがえた。

また、研修会の最後に農業水産振興課から、昨年度、重点プロジェクトの一環で下津町農業士会が中心となって実施した、海南・下津農業の現状と将来に関する調査結果と下津ワーキングチームで作成した「下津の将来ビジョン」について説明し、農業者、JA、海南市、県が一体となって「次世代につなぐ下津みかん産地への取り組みを進めましょう」と呼びかけた。



研修



紹介されたアイデア農具の一部

2. 和海地方農村青年交流会を開催

7月28日、和歌山地方農村青年交流促進協議会（井口和哉会長（海南市産業振興課長））主催で和海地方農村青年交流会が開催された。この交流会は、地域の農産物や伝統文化に関する体験交流を行うことにより、地域の魅力や農業・農村生活に対する理解と関心を深めることを目的として毎年開催されている。内容は、和海地方4Hクラブ連絡協議会（峯本和幸会長）の会員が中心となって考案した。

今年度は、海南市、和歌山市などから女性7名、男性10名（うち7名は和歌山地方4Hクラブ連絡協議会会員）の参加があった。海南市の4Hクラブ員のブルーベリー園地にて収穫体験を行ったあと、JAながみねとれたたで広場内調理室に移動し、洋菓子店「アンシャンテ」（海南市且来）のパティシエを講師として招き、ケーキ作り体験を行った。参加者らは、和気あいあいと楽しんでいた。その後、地元の野菜を用いて懇親BBQを行った。

参加者からは「収穫体験は初めての体験だったが、楽しかった」、「楽しくコミュニケーションがとれたので良かった」という感想があり、同様の交流会があれば参加したいという前向きな意見も多かった。

農業水産振興課では、今後も、協議会活動を支援しながら農業者と消費者との交流の場をつくっていきたいと考えている。



ケーキ作り体験



懇親BBQ

Ⅱ 那賀振興局

1. 桃「つきあかり」栽培講習会を開催

7月12日、かき・もも研究所和中主任研究員を講師に招き、桃「つきあかり」の栽培講習会を開催し、あら川の桃振興協議会役員や「つきあかり」栽培農家など12名の出席があった。

「つきあかり」は、「白鳳」と比較して着果が安定しないため、摘蕾を少なくし、予備摘果に重点を置いた結実管理を行うと良いことや、5～7年生ほどの間は果実が小さく、収穫を遅らせても果実肥大には繋がらず、過熟となってしまうことなど、品種特性や栽培管理について説明があった。

参加者からは「つきあかり」の耐病性や大玉生産のポイントなどについて質問があった。今後とも、本品種の現地適応性の調査および生産振興に向けた支援をおこなっていく。



品種特性の説明



目揃え用サンプル

2. 消費税軽減税率制度説明会の開催

那賀有機農業推進協議会（関弘和会長）では、7月25日の第3回役員会開催に合わせて、本年10月から消費税率10%への引き上げに伴う軽減税率制度の導入についての研修会を開催した。

講師に、大阪国税局課税第2部消費税課 福島国税実査官及び近畿農政局和歌山支局 有政総括農政推進官を招き、消費税の基本的な仕組みや軽減税率制度の概要、JA等における委託販売手数料の扱い、適格請求書発行事業者登録制度の他、軽減税率対策補助金等についての説明を受けた。

会員からは、「軽減税率の対象は「食品」であるが、送料を込みとした場合の扱いはどうすれば良いか」といった積極的な質問が寄せられ、「課税の基準である売り上げが1000万円前後の人は大変だ」



説明会

との声が上がった。

国税局からは、「制度はかなり複雑なので個別に対応もしていく。疑問等があれば国税局の消費税課並びにお近くの税務署に問い合わせたい」との話があった。

今後も農業水産振興課では、会員らの経営や栽培の参考となる研修会を開催していく予定である。

Ⅲ 伊都振興局

1. 小学校へ「ももの出前授業」を実施

7月3日、農業水産振興課では橋本市立紀見小学校6年生62名を対象に、ももの出前授業を行った。この授業は、児童達が県産果実の知識を深め、農業への理解促進と郷土愛、食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的として行っている。

はじめに、果樹園芸課から桃の贈呈式が行われたあと、有田普及指導員が県内の桃の生産量や品種、栽培方法などを説明した。続いて、桃農家の倉谷孝子氏から、桃栽培の苦労話や県内でも珍しい桃の観光農園の取組について説明があった。

その後、児童は、配られた桃の品種や特性の説明を受けてから、桃を湯引きして皮を剥き、試食した。児童は、ツルっと皮が剥ける様子に驚いており、自宅でもやってみたいという声が多く上がった。後日、小学校から家庭でも湯引きをしたという話を聞き、小学生の段階から地域食材に対する食育を実施していく重要性を感じた。

今後も、当課では地元の特産物や加工食材を使って食育を推進していく。



桃の贈呈式



桃の栽培・収穫について説明

2. クビアカツヤカミキリの発生調査を実施

伊都管内では、平成29年にモモやスモモ等の核果類に重大な被害を及ぼす特定外来生物のクビアカツヤカミキリの雄1頭が本県で初めて捕獲されている。農業水産振興課では、本年度から橋本市、かつらぎ町、九度山町、JA紀北かわかみ、かき・もも研究所と協力してクビアカツヤカミキリの発生調査を管内20箇所で行っている。6月5～14日に続き、7月8～10日の調査でも、クビアカツヤカミキリの成虫およびフラスの発生は確認されなかった。

当課では、クビアカツヤカミキリの初期発生時への対応に繋げるために、今後も発生調査を続けると共に、農業者への啓発を行っていく。



クビアカツヤカミキリ



発生調査

IV 有田振興局

1. 有田川町の小学校でみかんの摘果体験授業を実施！

有田川町立御霊小学校では、子供たちに地域の基幹産業である農業への理解を深めてもらうため、有田川町青年農業士 玉置泰伸氏の協力のもと、3年生の総合学習の授業でみかん作りに関する学習に取り組んでいる。

7月10日の授業では、農業水産振興課の上山普及指導員からみかんの栽培管理について説明した後、玉置氏指導のもと摘果体験を行った。また、収穫までの過程を観察するため、児童それぞれが気に入った果実にラベルを巻いた。児童からは、「どの実を摘果したらいいの?」、「摘果しないとどうなるの?」といった質問が数多くあり、興味深く作業に取り組んだようであった。

また、有田川町立鳥屋城小学校でも、有田川町4Hクラブ会長 亀井勇希氏の協力のもと、同じく3年生で、みかん作り学習に取り組んでいる。

7月17日には、亀井氏のほ場で、摘果体験が行われた。亀井氏から、生育の悪い果実や傷の入った果実、また一箇所に多く成りすぎた果実を取る等、摘果方法の説明があった後、児童たちは、慣れない手つきで摘果作業を行い、美味しい果実を収穫するための生産者の苦労を実感した様子であった。

当課では、今後も食育の取組支援を行っていく。



御霊小学校での授業



鳥屋城小学校での授業

2. 不知火（デコポン）の摘果ならびに農業用マスクの研修を実施！

7月17日、有田川町でアグリビギナー等技術経営研修会を開催し、新規就農者ら6名が参加した。

まず、指導農業士の森田耕司氏の不知火園にて、上山普及指導員から摘果方法のほか、施肥・かん水を含めた今後の栽培管理に関する資料説明をした後、森田氏とともに摘果の実習を行った。

不知火は大玉果生産のため、温州みかんよりも着果数を少なくしなければならないため、参加者は摘果量の多さに驚いており、収穫時期や果実の取扱の注意点など、質問も多かった。

その後、JAありだの会議室に移動し、農薬用マスクの正しい使い方について、農業用保護マスク研究会の会員である三光化学工業（株）の岡田営業部長より、農薬中毒の現状やマスクの種類、正しい装着の仕方等の説明を受けた。

また、装着時の空気の漏れ率を測定する実演もあり、参加者は、熱心に耳を傾けていた。

今後、みかんに関することのほか、農業機械の安全使用、経営に関すること等の研修を予定している。



不知火の摘果



農業用マスクの正しい使い方

3. 有田地方農業士協議会研修会が開催されました

7月23日、果樹試験場で有田地方農業士協議会（森田耕司会長）主催の研修会が開催され、各市町から農業士及び関係者併せて46名が出席した。

今回は、カンキツ類の生産技術向上を目的に、果樹試験場の中谷主査研究員と田嶋主査研究員から、「植物生長調節剤ジベレリン（温州みかんの浮皮軽減）とターム（かんきつの摘果）の特徴と使用方法」、「果樹試験場育成カンキツ新品種「はるき」の特性」について、技術解説を受けた。

中谷主査研究員からは、基礎的な植物ホルモンの解説の後、ジベレリンとジャスモメート混用散布による浮皮軽減や「ターム」による摘果に関する試験結果を基に、適切な散布時期と濃度について説明があった。

田嶋主査研究員からは、果樹試験場育成品種「はるき」の育成の経過と共に、熟期が3月で糖度が高く、手で剥きやすいなどの特徴について詳しく説明を受けた。その後、場内に栽植されている苗木や高接ぎ樹を見学した。

参加者からは、「ジベレリンとジャスモメート混用散布で果皮の着色が遅れたとあったが、収穫後何日ぐらいで着色したか」や「「はるき」の樹勢は他の品種と比べてどの程度か」など、熱心な質疑応答が行われた。



植物生長調節剤の解説



「はるき」高接ぎ樹の見学

V 日高振興局

1. 印南町農業士会、印南町4Hクラブが先進地研修会を開催

<印南町農業士会>

7月12日、印南町農業士会（村上智一会長）が「切花類と青果物の市場および輸入動向」をテーマにした先進地研修会を開催し、会員11名が参加した。

切花類については、梅田生花市場を訪問し、吉田智専務取締役から輸入品の取扱額が増加傾向にあることの説明があり、出荷品に対し、鮮度保持を徹底するよう要望を受けた。

一方、青果物については大阪中央青果株式会社を訪問し、エンドウ、ミニトマト、小玉スイカの各担当者から説明を受けた後、野菜の需要や価格について意見交換を行った。

会員からは「市場から産地の評価を聞く良い機会だった。個人としてではなく、産地として品質を意識した生産を行っていききたい。」との感想が聞かれた。



梅田生花市場での研修



大阪中央青果株式会社での研修

<印南町4Hクラブ>

7月31日～8月1日に印南町4Hクラブ（西山和克会長）が三重県での県外先進地研修会を開催し、会員3名が参加した。

花き・花木類の品種について学ぶため、福花園種苗株式会社美里農場を訪問し、担当者からスターチスシネンシスやヒペリカム等の有望品目について説明を受けた。その後、スターチスシネンシスとユーカリの栽培圃場を見学した。会員らは「露地で栽培できる省力的な品目は？」、「ユーカリの剪定方法は？」等の質問をし、新規品目の導入に興味を示していた。

続いて、総合的病虫害管理技術（IPM）について学ぶため、農研機構野菜花き研究部門安濃野菜研究拠点を訪れた。組織の概要について説明を受けた後、土着天敵を利用したナスのアザミウマ防除圃場や、ニガウリの訪花昆虫の調査圃場を見学するとともに、研究内容について説明を受けた。会員らは、施設花き類でのIPMの導入事例や防虫ネットの種類について質問し、IPMについての知識を深めていた。

会員らは新品目や新技術を学ぶことができ、大変有意義な研修会となったようだ。



福花園種苗で品目の紹介を聞く会員



農研機構で訪花昆虫の説明を聞く会員

2. 日高地方農業士会女性部会が先進地研修会を実施

7月16日、日高地方農業士会女性部会（二葉美智子部会長）が、先進的な6次産業化の取り組みを学ぶとともに会員同士の交流を図ることを目的に滋賀県で現地研修会を実施し、会員15名が参加した。

昨年度、全国優良経営体表彰で農林水産大臣賞を受賞された、高島市の有限会社宝牧場代表取締役の田原哲也氏から、肉用牛の飼育・繁殖、酪農、養豚等の生産部門、ソクトクリームやパンの製造・販売、焼き肉レストランと精肉販売等の6次産業化の取り組みをについて話を聞いた。田原代表取締役は、父親の夢をなかえるために家業を継いだことや牛乳を使った商品の開発、常に原価を考えて、値段を決めていることなどを話された。

会員からは、「家業を継ぐことに抵抗はなかったのか」、「労働力の確保はどうしているのか」、「売上げは？」などの多くの質問があり、関心の高さが伺えた。

また、バターづくりを体験し、会員相互の交流も深めた。

今回は、来年2月にみなべ町で研修会を実施する予定である。



田原代表取締役から話を聞く部会員



出来上がったバターを試食

3. シカレディースが学校給食関係者にシカ肉料理をPR

シカレディースは、平成 25 年に日高地方生活研究グループ連絡協議会（後藤明子会長）の有志で結成され、料理講習会やイベントでの試食会の開催、レシピ集の配布などによりシカ肉料理の普及に取り組んでいる。

7 月 25 日、シカレディースの後藤隊長と隊員 2 名が、印南公民館で開催された日高地方学校栄養士研究会主催の料理研修会で、シカ肉料理のPRを行った。

後藤隊長から学校給食の栄養士及び調理員の方々にシカレディースの活動とシカ肉の特徴、シカ肉料理を紹介した。

隊員が前日から調味料に漬け込んだシカ肉を、参加者とともに竜田揚げにし、皆で試食した。参加者からは、「初めて食べたが、柔らかくて美味しかった」、「ジビエ特有の臭みがなかった」、「給食では下味をつけて漬け込む時間が長くとれない」などの声があった。

今後も学校給食関係者と交流しながら、給食でシカ肉料理をもっと食べてもらえるよう活動を継続していく予定である。



シカ肉料理を紹介する後藤隊長



豆料理とシカ肉の竜田揚げ

4. 御坊市4Hクラブが県外研修、切り枝花木を学ぶ

御坊市4Hクラブ（西田成貴会長）の会員7名は、7月29～30日の日程で大阪府、香川県、愛媛県で県外研修を実施し、省力的な補完品目の候補として切り枝花木の品目と栽培技術を学んだ。

大阪府茨木市の総合ガーデンセンター「the Farm UNIVERSAL OSAKA」では、様々な観賞用植物とその植栽、利用方法を見学した。愛媛県今治市では、県今治支局の内田和仁専門員、JAおちいまばりの宇高哲也考査役の案内でビバーナム・ティナス、ピットスポラムの栽培ほ場を見学した。会員からは、「様々な品目で実際の栽培状況を見ることができて、漠然としていた切り枝花木栽培のイメージがかなりはっきりした」、「優良苗の安定確保と植えてから収穫まで時間がかかることが課題」などの感想が聞かれた。

そのほか、香川県三豊市でヒマワリの切り花栽培ほ場、愛媛県東温市の県花き研究指導室を見学した。



the Farm UNIVERSAL OSAKA



ピットスポラムの栽培ほ場

VI 西牟婁振興局

1. 温州ミカン果実肥大・品質調査を開始

温州ミカンの高品質安定生産に資するために、7月5日から果実肥大調査を、7月18日からは果実肥大と品質調査を始めた。極早生は「YN26」や「ゆら早生」など5品種、43園地で、早生は「宮川早生」など45園地で実施しており、JA紀南各営農室と農業水産振興課で協力して調査している。



果実肥大・品質調査

調査の結果、果実肥大は平年並みであったが、梅雨入りが遅く7月の降雨量が平年より多かった影響で糖度は平年より低く、クエン酸含量は平年より高い結果であった。各品種とも収穫直前まで調査する予定で、得られたデータは園主にフィードバックして栽培管理に役立ててもらうとともに、消費者に美味しいミカンをお届けられるよう、マルチの推進や摘果の徹底など技術指導に活用していく。

2. 生馬小学校で「ももの出前授業」を実施

7月17日、上富田町立生馬小学校6年生の児童（21名）を対象に、農業水産振興課がももの出前授業を行った。県では、地産地消の取り組みとして、平成24年度から県内小学校・特別支援学校に給食や家庭科等の教材として主要農水産物の提供を行っており、今回はその取り組みの第2弾である。

前田普及指導員が、桃の産地や品種・栽培方法・栄養について説明すると、児童から多くの質問があった。「桃にはなぜ甘い部分と酸っぱい部分があるのか」との質問では、実際に果実を切り、糖度計で糖度を測って見せ、ひとつの果実の中でも糖度の高い部分と低い部分で1~2度の差があることに児童は驚いていた。そのあと試食し、児童たちは桃をおいしそうに食べていた。

最後に児童から、「桃の産地や栽培など色々なお話が聞けて良かった」と感想があり、桃への関心、理解を深めたようであった。前田普及指導員から「今日知ったことを家族の皆さんに伝えてほしい。和歌山県には桃以外にもおいしい果物がたくさんあるので、旬の果物を食べて元気に過ごしてください。」と呼びかけた。

今後も当課では関係機関と協力しながら、食育を推進していく。



授業風景



試食

3. ツマジロクサヨトウ発生調査を実施

7月9日、白浜町と上富田町において、県病虫害防除所職員及び普及指導員が参加し、ツマジロクサヨトウ発生調査を実施した。

ツマジロクサヨトウは、本年7月3日、我が国で初めて確認されたヤガ科の害虫である。国からの調査依頼を受け管内スイートコーン栽培4圃場で食害痕、幼虫の発生状況を調査したが、発生は確認されなかった。

本虫は極めて広食性でイネ科(トウモロコシ、イネ、サトウキビ)、豆類、いも類、野菜類など80種以上の作物に被害を与える。終齢幼虫は頭部に逆Y字及び尾部に斑点があるのが特徴である。

本虫と疑われる虫を発見された場合は、各振興局農業水産振興課までご連絡ください。



発生状況調査



ツマジロクサヨトウ幼虫
(植物防疫所原図)



ツマジロクサヨトウ被害
(植物防疫所原図)



幼虫の寄生
(植物防疫所原図)

4. スターチスのクーラー育苗を開始

J A紀南管内のスターチス生産者で組織するクーラー育苗利用組合員（5戸）が、田辺市秋津川にあるクーラー育苗施設で7月24日よりクーラー育苗を開始し、主要品種‘サンデーバイオレット’など約9,000本の苗を鉢上げした。この育苗施設において、近年導入されつつある固化培地苗（熱融着性繊維で固めた培地を使った苗）の特性を調査するために、組合員らで固化培地を使つての鉢上げも行った。固化培地苗の長所として、定植作業の省力化や採花初期の切り花品質の向上が考えられるが、一方で、培地コストが高くなる短所もある。

今回は、生育旺盛な‘サンデーバイオレット’と草丈が伸びにくいピンク系品種について、固化培地苗とポット苗との比較を行い、品種による適応性と経済性を検討する。固化培地での育苗は、慣行のポリポット育苗に比べて乾燥しやすいため、従来の灌水方法で問題がないか、液肥や置き肥のタイミングをどうするかなど話し合い、今後、生育を観察しながら管理を行っていくことになった。また、種苗費の削減を図るために、暖地園芸センターの研究成果である、クーラー育苗を行わずに育苗した苗を用いた現地実証も行う。

当課では、J A担当者、生産者と連携しながら生育、収量調査や現地検討会を行い、これらの技術を現地に導入する際の課題等を検討していく予定である。



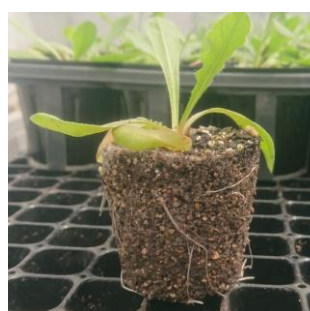
共同での鉢上げ作業



固化培地に鉢上げした苗



クーラー育苗



鉢上げ後6日目の個化培地苗

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新規就農者育成を核としたイチゴの産地育成】 ～イチゴ炭そ病対策研修及びイチゴ炭そ病菌の簡易検定を実施～

6月21日、農業水産振興課では、JAみくまの共催でJAみくまのトレーニングファームの研修生(新規就農予定者)を対象に、イチゴ炭そ病の対策研修(第2回セミナー)を開催した。

研修では、堺普及指導員が炭そ病の防除方法と炭そ病菌の検定方法について説明した後、検定に使用する葉のサンプリング実習を行った。

6月26日、JAみくまの笹平主事と堺普及指導員がJAみくまのみさき支所にてイチゴ炭そ病菌の簡易検定を実施した。検定では、実習でサンプリングした1検体と管内のイチゴ農家10戸からサンプリングされた10検体について、葉の洗浄、エタノールでの殺菌など検定手順に沿って処理を行い、培養器で2週間保管した。2週間後の7月10日、葉の分生孢子層の形成から感染株の判定を行い、結果について各農家に情報提供した。

当課では、今後も関係機関と連携して、イチゴセミナーや現地検討会等により新規就農者の育成と産地の振興を図っていく。



炭そ病検定のサンプリング実習

2. 勝浦の小学生がトウモロコシの収穫と袋詰めを体験

7月5日、那智勝浦町立勝浦小学校3年生48人が、那智勝浦町井鹿でトウモロコシの収穫体験を行った。この取り組みは、新宮周辺地場産青果物対策協議会(小田三郎会長)が中心となり、地産地消推進活動の一環として小学生を対象に開催しているものである。

ほ場で、青果物対策協議会の生産部会員である松本安弘氏から収穫時の注意点について説明があった。その後、児童達は、松本氏らにアドバイスをもらいながら大きくて実の詰まったトウモロコシを1本1本でいねいに収穫し、1人あたり5本のトウモロコシを収穫した。

収穫後、JAみくまの太田営農センター集出荷場で、児童は収穫したトウモロコシのうち2本を事前に作成したポップとともに袋詰めし、残り3本は自宅に持ち帰った。

袋詰め終了後、「とうもろこしはなぜ黄色いの?」、「種を播いてから収穫までどれくらいかかるの?」など多くの質問が出され、松本氏と堺普及指導員が身振りなどを交えながら、わかりやすく解説した。

袋詰めされたトウモロコシは、新宮中央青果を通じて地元の青果店で販売された。当課では、今後も新宮周辺地場産青果物対策協議会の活動を支援していく。



収穫方法の説明



袋詰め

3. アブラナ科野菜根こぶ病菌の簡易生物検定研修を開催

農業水産振興課は、6月28日と7月29日の両日、新規就農者(2名)及びアブラナ科野菜生産者6名を対象にアブラナ科野菜根こぶ病菌の簡易生物検定研修を開催した。

本研修は、管内のタカナ、ブロッコリー、ハクサイ等のアブラナ科に被害を及ぼしている根こぶ病菌の土壌中の菌密度を調べ、次作の対策に繋げることを目的に開催。

6月28日は、JAみくまの太田営農センターにて、まず堺普及指導員と浅井普及指導員が研修参加者に根こぶ病菌の特徴や判定の基準、防除対策などについて説明を行った。その後、参加者は各自ほ場から採取した検定土壌の調整や、セルトレーへの充填、検定に用いるハクサイ種子の播種などの作業を行った。

7月29日は、JAみくまのトレーニングファームにて検定結果の判定を行った。参加者らは、検定土壌で一か月育苗したハクサイの根についた土をきれいに洗い流し、根のこぶの発生状態を確認し合った。堺普及指導員からは発生度合に応じた対策方法を紹介した。

当課では引き続き、アブラナ科野菜生産者に根こぶ病対策について指導、注意喚起を行っていく。



6/28 検定方法の説明・播種



7/29 検定結果の判定

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

1. ウィークエンド農業塾 農業入門コース（第1班）閉講

7月21日、ウィークエンド農業塾農業入門コース（第1班）が最終日を迎え、午前は温州ミカン園のマルチ敷設の実習、午後からは閉講式を行った。受講者10人のうち8割以上の日程を受講した7人の方に対し、岩尾所長から修了証書が手渡された。

閉講式前の意見交換会では、「生産から出荷段階までの方法が知れて良かった」、「肥料や農薬の計算がきちんとルールや根拠に基づくことがすごく参考になった」、「栽培したい品目が増えて視野も広がった」などの感想も聞きながら話し合いを行った。

今後は、家庭菜園から始める方、親の後を継いで栽培を始める方、農家民泊を始める方など全員が何らかの形で農業に携わることになる。



温州みかん園マルチ敷設



閉講式前の意見交換会

2. ブルーベリーの収穫と挿し木の實習を実施

就農支援センターでは、7月3日よりブルーベリーの収穫が本格的に始まった。社会人課程や技術修得研修、ウィークエンド農業塾での実習で収穫を行った。また、収穫したブルーベリーを出荷するため、選別やパック詰めを行った。

また、7月25日、社会人課程の実習でブルーベリーの挿し木を行った。研修生は挿し穂となる枝の採集や調整、用土の準備、接ぎ木ナイフ研ぎ方や使い方などを学んだ。初めて接ぎ木ナイフに触れる研修生がほとんどで、接ぎ木ナイフを扱うのに苦労しながらも懸命に取り組んでいた。

今後、8月中旬までブルーベリーの収穫が続く予定である。また、ブルーベリーの挿し木は活着して根が出揃った頃に鉢上げを行い、苗として育成する。



ブルーベリーの収穫



挿し穂の調整

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489